

サンクチュアリセンターニュース

vol.86

夏の伊豆沼・内沼を彩るハスの花。
花は朝に咲き始め、甘い香りを漂わ
せます。
昼頃には花が閉じますので、午前中
の観覧をお勧めいたします。

平成29年8月号

栗原市内の小中学生がジオパーク学習に訪れました

ジオパーク学習で栗原市内の小中学校3校が、伊豆沼の自然環境について学習しに訪れました。7月13日は栗駒小学校2年生がつきだて館で館内学習をしました。生徒たちは、館内でトンボや大きなナマズ、カラスガイを手にとりて観察したり展示標本を見学し、興味津々な様子でした。翌14日は、一迫小学校4年生が伊豆沼サンクチュアリセンター前の水生植物園で野外実習を行いました。水生植物園の昆虫や魚を採集・観察したり、泥だらけになりながら希少なジュンサイを植栽する等、伊豆沼の自然について学びました。7月19日は、瀬峰中学校2年生が水生植物園で野外実習を行いました。その中で水質調査では、パックテストと呼ばれる水質調査キットで水道水と伊豆沼周辺の水を比較し、水の汚れを調べました。結果は、伊豆沼周辺の水は汚れていることがわかりましたが、同じ汚れでもジュンサイが生育できる植物由来の汚れと生活排水などによる汚れの違いがあることを学びました。



つきだて館で館内学習をする栗駒小学校2年生の皆さん。伊豆沼・内沼にはどんな昆虫がいるかな？



一迫小学校4年生は水生植物園でジュンサイの説明を受けた後、植栽を行いました。たくさん増えるといいですね。



瀬峰中学校2年生は水質調査キットを使って野外実習を行いました。水道水と伊豆沼の水質の違いに驚いたようです。

第3回伊豆沼・内沼自然体験講座を開催しました

7月23日に第3回伊豆沼・内沼自然体験講座「昆虫採集と標本作り」を栗原市サンクチュアリセンターつきだて館（昆虫館）で開催しました。当日の午前はいいにくの天気のため昆虫採集ができませんでしたが、わくわくどきどき実験室の皆様が珍しいチョウの講話をしていただき、参加した親子17人は目を輝かせながら聴いていました。午後からはチョウの標本の作り方のコツを教えてもらい、展翅板（てんしばん）や昆虫針を使って標本を完成させました。



先生の話真剣に聞く子供たち



慎重に昆虫針を使って標本作り。どんな標本になるのか楽しみ。



バス・バスターズ 今年の活動が終了

ボランティアを中心とした外来魚駆除活動、バス・バスターズ。バスターズは2004年に発足した活動で、今年で14年目になります。今年は、5月21日から6月25日まで、毎週日曜日に計6回の活動を行い、延べ152名にご参加いただきました。作業内容は、これまでと同様、人工産卵床によるオオクチバスの卵の駆除、三角網を用いたバスの稚魚すくいなどを行いました。結果、バスの卵が見つかった人工産卵床は13か所でした。これまでの継続した駆除活動により、人工産卵床に産み付けられるバスの卵は年々減少しています。おかげさまで、沼では様々な魚やエビが増えてきました。引き続き駆除活動を行ない、沼の生態系を守っていききたいと思います。



バス・バスターズの皆さん、ご協力ありがとうございました。

伊豆沼・内沼生き物図鑑 オオムラサキ

梅雨明け頃のヤナギ林では、カブトムシやクワガタ、そして恐ろしげなオオスズメバチが樹液に集まってきます。他の虫たちも樹液が欲しいのですが、昆虫界の強者3組が幅を効かせているため、その色や音をうかがいビクビクしています。しかし、これらの強者を蹴散らすチョウがいるのです。その名はオオムラサキ。オスのハネは青く輝き、バタバタと音をたてて飛びます。その力強い羽ばたきで、オオスズメバチさえも撃退し、樹液を占領します。普段私たちが想像する、可憐なチョウのイメージとはかけ離れています。敵なしのオオムラサキですが、全国的に数を減らしています。林の手入れ不足によって、木に穴を開ける虫が減り、樹液が出にくくなったため、成虫のエサがなくなったためです。伊豆沼・内沼周辺にはまだ沢山生息しています。採り尽くさないよう、優しく見守って頂ければ幸いです。



〈事務局〉

〒989-5504宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217
ホームページ:<http://izunuma.org/>
E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp